

09年春闘宣言

生活危機突破の大運動で、雇用と国民生活を守ろう 食の安全・食糧の安定に貢献する生協事業と運動の展望を切り開こう

生協と関連で働くなかまのみなさん

アメリカ主導のカジノ資本主義の破綻は、深刻な景気後退をひきおこし、くらしと雇用・地域経済に大きな打撃を与えています。景気回復のためには、外需に依存してきた日本の経済を内需主導へきりかえ、労働者・国民の生活と地域経済をまもることが急務となっています。

企業業績の悪化を先取りするリストラや賃下げ圧力が強まっています。自動車や電機などの大企業が輸出の落ち込みや景気後退などを理由に、違法な派遣切りなどの首切り、契約解除を相次いで発表し、数百件にのぼる内定取り消しという無責任で理不尽な事態まで生まれています。トヨタは2008年度収益予想が減ったとはいえ、6000億円ものの利益が見込まれ、内部留保も13兆円に達しているにもかかわらず、8000人近くの派遣、期間工労働者の首切りを行っています。労働者のクビを簡単にきり、株主への配当を軒並み増加させるようなことは、社会的にも許されることではありません。

生協と関連で働くなかまのみなさん

いすゞ自動車による違法な期間・派遣社員の全員解雇に対して、12月3日栃木工場の期間・派遣社員ら4人がJMIU(全日本金属情報機器労働組合)いすゞ自動車支部を結成するなど労働者・労働組合の反撃も始まっています。

09年春闘では、雇用の確保と安定、社会保障の充実と負担軽減、最低賃金の大幅引き上げと賃上げ、貧困と格差の解消、そして「働くルール」の確立をめざして、地域、職場からの貧困・生活危機突破の国民的大運動を広げていくことが求められています。

生協と関連で働くなかまのみなさん

1月に発生した餃子事件は生協における商品の品質管理システムがあらためて問われるとともに、生協のあり方、生協運動そのものが内外から問われることとなりました。その後生協の信頼回復に向けたとりくみを継続しています。生協労連は、11月22日~23日にかけて、「食の安全を考えるシンポジウム」を開催し、食糧の自給率向上や生協の組織運営改革とあわせて、国内外を問わずあらゆる段階でのディーセントワークを確立していくことの重要性などについて確認しました。また、最低賃金の大幅引き上げと最賃審議委員の公正任命求めて、11.13中央行動にとりくみ、厚生労働省交渉をはじめとする行動を展開しました。

2009年春闘では、さらに論議を深め、事業と運動の展望をいかに見出すかが求められます。

生協と関連で働くなかまのみなさん

2009年春闘は「格差と貧困の解消」「最低賃金1,000円以上の実現と全国一律最低賃金制の確立」「働くルールの確立」「均等待遇の実現」「消費税増税反対」「憲法9条守れ」などの要求を大きく掲げてたたかっていきましょう。そして、それらの要求を実現していくために、解散総選挙を求めるとともに、国民本位の政治の革新を目指しましょう。

また、「8万人生協労連」の実現に向けた組織の拡大・強化をめざし、旺盛にとりくんでいきましょう。みんなで2009年春闘で奮闘することをここに宣言します。

2008年12月11日 生協労連第86回中央委員会